

「中南米／広域消防・救急救命」コース

対象国：アンティグア・バーブーダ、ベリーズ、
セントクリストファー・ネイビス、
セントルシア、スリナム

受入人数：12名

受入期間：2017年12月3日～2017年12月20日



カリブ海に浮かぶ島国や、南アメリカ大陸の北端に位置する5つの国から、12名の消防士を受け入れました。

本コースでは、2016年4月より運営が開始され、日本で最も広い所管面積を有する「**とかち広域消防局**」について、管内19市町村がまとまって消防にあたることとなったメリットや、運営体制などについて学びました。

国によっては、日本がかつてそうであったように、消防は警察の一部であり、救急救命に関しては、別の省庁が所管しているケースがあったり、救急車は民間の病院が所有していたりと、組織や役割の違いがあります。

しかしながら、予算不足、人材不足に悩む研修員たちは、同じ課題をもちながらも効率的に運営されている十勝の事例について、非常に熱心に学び、帰国後には諸課題への解決策を組織に提案していきたいと話していました。

言葉の壁はありましたが、「**生命と財産を守る**」という、消防士の使命感は万国共通で、講師の方々と研修員とが、固い握手を交わす姿が印象的でした。



ロープ、はしご、防火服。素材や機能の共通点や違いを共有しました。



人生初のロープ渡り訓練。母国では、人材不足から、救助訓練までは手が回らないそうです。



浦幌消防署では、街を守るための消防団の重要な役割についても学ぶことができました。



自治体や地域コミュニティが、普段から災害に備えていることも、大きな発見でした。